



2015 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第4戦
SUGO SUPERBIKE 120 miles ENDURANCE RACE
TOHO Racing with MORIWAKI レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

6月27日(土曜日) 天候：雨 路面：ウエット

公式予選／1' 37" 419 5番手

6月28日(日曜日) 天候：小雨 路面：ドライ～ウエット

決勝／18位 (42周)

開催地：宮城県・スポーツランドSUGO (1周=3.7375km)

入場者数：4,700人 (土・日合計)

全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦が宮城県・スポーツランドSUGOで行われた。今年も、この大会はセミ耐久レースとして行われ、3年目を迎える。一昨年、昨年と成績を残すことができているだけに今年は、いい結果を出したいところだった。実際、事前テストから順調にマシンのセットアップも決まり、アベレージタイムで1分27秒台中盤で走ることができており、キット車にしてみれば上々の仕上がりがりだったのだが…。

レースウイーク初日となった金曜日は事前テストで試すことができなかったパーツにトライし、そのパーツに合わせたセットアップを試みたが、いい方向には行かず元に戻して土曜日の公式予選に臨むことにした。

レインコンディションとなった公式予選。今回は、1時間の計時で行われた。途中、他車の転倒による赤旗中断が2回あり集中力を保つことが難しいセッションとなったが、山口はドライから少しアジャストしたマシンで走り出し、雨で決勝を走ること想定しながらマシンセットを進めて行った。一発タイムこそ5番手に留まったがアベレージは、まずまずのタイムで周回できていただけに、決勝に向けての手応えを感じていた。



決勝レースは、1周約3.7kmのスポーツランドSUGOを52周（約194km）で争われた。セミ耐久レースだけに、一度はピットインし給油を行われなければならないレギュレーション。日曜日にも雨予報だったが、朝は曇り空となっており、路面もドライコンディションとなっていた。ウォームアップ走行で山口は、タイヤの皮むきとマシンの最終チェックを行いレースに備えていたが、セッションが終わるところから霧雨が降り始めていた。その後、雨は降ったり止んだりを繰り返し、先に行われたJ-GP3クラス、J-GP2クラスも不安定なコンディションでのレースとなっていた。

JSB1000クラスが始まるころは、雨は止んでおり当然スリックタイヤを履きグリッドに向かった。スタートはマシンにライダーが駆け寄るル・マン式で行われ、山口は、まずまずのスタートを見せ6番手で1コーナーに入っていく。その後、2つポジションを上げ4番手でホームストレートに戻ってくるが、ストレートで柳川選手にかわされ5番手に後退するが、3周目には加賀山選手をかわして4番手に上がる。しかし、5周目には後方から追いつけて来た津田選手にかわされてしまう。この時点で雨が強くなって来ておりペース配分が難しい状況となってくる。トップ2台は、やや離れており、山口は、津田選手、柳川選手と三つ巴の3番手争いを繰り返していた。8周目に2番手を走っていた高橋選手がSPインコーナーで転倒し、これを見た山口は2番手まで上がれると思ったと言う。実際、柳川選手をかわし3番手に浮上。そして9周目の3コーナーで津田選手をかわしに行った、そのとき津田選手がハイサイドでクラッシュ。間近にいた山口は津田選手のマシンを避けきれず転倒を喫してしまう。直後にいた柳川選手も転倒し、上位を走っていた3台が転倒するアクシデントとなってしまう。山口はハンドルが折れ、ブレーキも壊れたマシンを起こし、何とかピットに戻ると、チームスタッフが迅速な作業でマシンを修復。大きく遅れはしたが、再びコースに戻ると18位でゴールし貴重なポイントを獲得したのだった。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

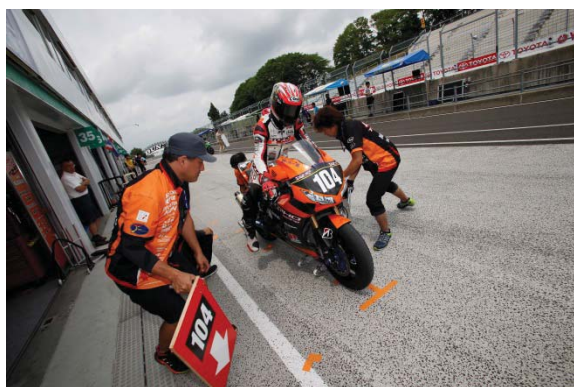
「SUGO は嫌いではないですし、調子もよかったですのですが、セミ耐久になってからの 3 年間は、なかなかうまくいきませんね。ちょうど 2 番手に上がれば、JSB1000 クラスでの最高位になれると思っていたのですが、津田選手がハイサイドで転倒してしまい、津田選手のマシンを避けることができず接触し転倒してしまいました。3 台が絡んでのアクシデントだったのですが、大きな事故にならずによかったです。この悔しさは、鈴鹿 8 耐で晴らしたいと思っています。引き続き応援よろしくお願いいたします」

チーフメカニック 戸井田剛コメント

「R4SUGO は路面の改修があったため、事前テストからタイヤの選択が難しくなっていました。レースウィークに入っても難しいコンディションが続きましたが、予選・決勝とライダーが上手く対応し、レース序盤は良いペースで走行できました。他車の転倒に巻き込まれて転倒してしまい残念なレースとなってしまいました。ライダーに大きな怪我もなく、転倒後はマシンの修復を行い最後まで走り切り、ポイントを獲得できたことは良かったと思います。次回は鈴鹿 8 時間耐久レースです。全日本の後半戦に繋がるようなレースを行っていききたいと思います」

総監督 福間勇二コメント

「SUGO でのセミ耐久レース、今年こそは結果を残せるようチーム一丸となって取り組んで参りましたが、残念な結果となりました。しかしながら、ライダーが転倒したマシンをピットに戻し、そこからはメカニックが全力をあげ修復し、最後まで走り切ることが出来たことは良かったと思います。次戦は鈴鹿 8 時間耐久レースとなります。スタッフ一同精一杯努力して参りますので、何卒宜しくお願い申し上げます」



株式会社 TOHO
TOHO Racing with MORIWAKI
担当：三山